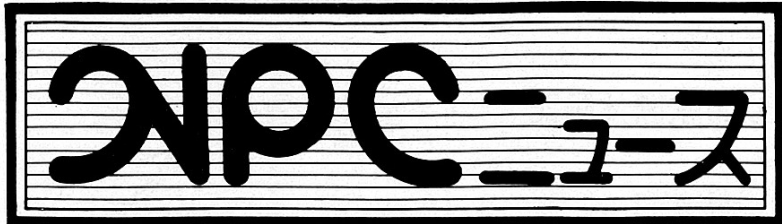


最も一般的な迷妄の一つは、現在、只今の時をぬきさしならぬ決定的な時ではないと思うことである。しかし、これだけは忘れてはならぬ。即ち、一日、一日が一生のうちの最良の日であるということ。



川内原子力 2 号機運開 (89万kW)



九州電力株式会社川内原子力発電所(鹿児島県川内市久見崎町)では、1号機(89万kW)に隣接して2号機(89万kW)を建設中であったが、去る11月28日に通商産業省の最終使用前検査を終え営業運転にはいった。この2号機の運開で同社の原子力発電は玄海2基、川内2基の4基体制となり、総発電設備容量に占める割合が21%(289万8千kW)となった。また、川内川対岸の同社川内発電所1・2号機(火力、各出力50万kW)も含めると川内地帯で総発電設備容量が389万8千kWとなり一大電源地点となった。

今回運開した川内原子力2号機は昭和56年5月に原子炉の基礎掘削工事を開始し順調な工事の進捗で本年3月初臨界に達し、以後、試運転が順調に進められ、計画より約2ヵ月早い11月28日に営業運転が開始された。同2号機は全国で32基目(PWRとしては15基目)の商業用原子炉で、1号機と同様に、玄海1号機(50年10月運開、出力55万9千kW)2号機(56年3月運開、出力55万9千kW)や先行炉の建設及び運転経験を十分に活用すると共に80万kW級PWR改良標準化モデルプラントとして、最新の設計がされている。九州電力株式会社においては、この2号機の運開で原子力発電の設備容量比はこれまでの15%(20万8千kW)から21%(289万8千kW)となり、関西電力(26%)、東京電力(22%)に次ぐ容量比となった。また、発電コストの低い原子力発電が極めて好調に高稼働しているため発電電力量に占める原子力発電の比率は本年度予想で38%となる見込みで、ガス火力26%、石油火力13%を大きく上回っており、原子力発電主力時代を迎

クウェート国、アズ・ズール・サウスP/Sに

技術者1名派遣 (森山憲一さん)

当社は、11月15日にクウェート国、アズ・ズール・サウス発電所に技術者1名を派遣した。この派遣は、三菱重工業株式会社社長崎造船所からの受注で、昨年11月に池本勇さんを派遣していたが(NPCニュース215号参照)、その交替として今回森山憲一さんを62年12月までの2年間の予定で派遣したものである。なお、池本さんは現地での引き継ぎを終え12月10日に帰国した。

このアズ・ズール・サウス発電所はタービン・発電機8機(各出力300MW・東芝製)、ボイラ8缶(各蒸発量1100t/H・三菱重工業製)を昭和62年12月までの予定で建設中であり、当地には同じく三菱重工業株式会社社長崎造船所からの受注でボイラ据付工事のため昨年12月に大丸正勝さん、今年2月に辻茂さんの2

名を派遣しており(NPCニュース217号、218号参照)それぞれ一時帰国を終え再赴任し鋭意工事に取り組んでいる。

また、当社が現在派遣している海外工事現場に、オーストラリアのベイズウォーター発電所があり、現地に赴任していた加藤光次さん(57年7月赴任)が去る12月9日にご家族と共に帰国した。なお、現在同地には、辻野茂良さん(58年1月赴任)と古賀正明さん(58年10月赴任)がご家族の方と共に滞在し業務に励んでいる。



えたとと言える。

この2号機の建設工事は1号機建設工事に約2年遅れて着工され、両機建設が輻湊した時期には最大1100名余りの当社要員が従事しており、大規模で長期にわたったため、従事した方がたの苦労は大変なものであった。しかし、無災害

で工事を終えたのは、立派な原子力発電所をつくるという共通の目標を持って、工事施工面は言うまでもなく日常の労務管理面にも気を配り地域の人々との交流を深め一大電源地点にふさわしい基盤を全員でつくっていったことによるものであろう。

＝ 年末年始事故防止強調月間 ＝

<S.60.12.16～S.61.1.15>

スローガン 「指差呼称の励行で

無事故の歳末 明るい正月」

年末年始は何かと忙しく、無理な作業をしたり安全確認を欠いたりしがちであるのに加え、寒さがつり体調を壊したり作業動作が鈍ったりして不測の災害発生が懸念される。

また、当社の安全成績を振り返ってみると、本年度は各現場の皆様をはじめ全員の協力と努力によって現在まで2件の災害で推移している。しかし、過去においては、年末に重篤な災害を起こしたことがあり、これからが正念場と気を引き締める必要がある。

そこで、12月16日から61年1月15日までの1ヵ月間、スローガン「指差呼称の励行で 無事故の歳末 明るい正月」を掲げ、年末年始事故防止強調月間と題して全社的安全衛生活動を展開している。

〔年末年始事故防止強調月間実施項目〕

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 行事 | 業床、開口部の養生、昇降設備の完備、安全ネットの活用) |
| (1)安全集会 | イ.安全帯使用の励行、指導(親綱の設置) |
| (2)安全祈願祭 | ウ.安全通路の確保(すべり止め、手摺、落下物養生、障害物の除去) |
| 安全祈願祭を実施し、61年度の無災害を誓う(新年仕事始めの日) | エ.上下作業の禁止(やむを得ぬ場合は相互連絡および養生の徹底) |
| 2. 重点事故防止項目 | |
| (1)墜落落下防止 | ア.墜落落下危険箇所の養生(作 |

- | | |
|--------------|--|
| (2)重量物取扱事故防止 | ア.使用前点検の励行(重機、吊り具、補助具) |
| | イ.免許取得者、有資格者、作業指揮者、合図者、監視人の配置 |
| | ウ.玉掛基準の厳守(定格荷重の厳守、すべり止め、あだ巻きの徹底、盤木当て物の使用、ガイドロープ、吊り袋の使用等) |

- | |
|--|
| エ.作業区域の設定と関係者以外立入禁止措置の徹底 |
| (3)感電事故防止 |
| ア.有資格者による作業指揮(電気主任技術者、電気工事士、特別教育修了者) |
| イ.危険箇所の標示と人が近づかない措置の確認 |
| ウ.電動機械、工具の使用前点検及び感電防止用漏電遮断機、自動電撃防止装置等の機能点検 |
| エ.停電作業における責任者による安全確認の励行 |
| (4)火災、爆発事故防止 |
| ア.消火器の一斉点検と火元責任者の確認 |
| イ.整理整頓の励行(可燃物等の整理) |
| ウ.指定場所以外の火気使用禁止(喫煙場所の指定) |
| エ.溶接、溶断作業時の対策実施と確認(ガスボンベ及び溶接機の点検整備、火花養生) |
| (5)車両事故防止 |
| ア.使用前点検、月例点検の確認 |
| イ.安全運転ルールの厳守(飲 |

- | |
|---|
| 酒、スピード、追い越し等不法行為の厳禁) |
| ウ.シートベルト、ヘルメットの使用の励行 |
| エ.スリップ事故防止(チェーン等の常備) |
| オ.過労運転の禁止 |
| 3. 安全衛生活動 |
| (1)KYMの実施 |
| 重点事故防止項目と当日の作業内容を照合し、該当項目をより重点的に話し合う |
| (2)指差呼称の実施 |
| 指差呼称で機材、道工具の安全点検及び自分の行動の確認を行う。 |
| (3)常時作業指示 |
| 作業責任者は常時作業を指揮する(現場を離れる時は代理を指名する) |
| (4)健康確認 |
| KYM時に、作業責任者がグループ員の健康確認を実施する。 |
| (5)安全パトロール |
| 期間中は安全当番を決め、交替で現場のパトロールを実施する(2回/日、午前、午後 |